

[重要文化財]

京都電気鉄道電車(京都市交通局二号電車)

保存修理事業ご奉賛のお願い



平安神宮崇敬会
平安神宮百三十年祭特別委員会

〒606-8341

京都市左京区岡崎西天王町 97 平安神宮内

電話 (075) 761-0221 FAX (075) 761-0225



日本初の電気鉄道、
現存する日本最古の電車



平安神宮崇敬会
平安神宮百三十年祭特別委員会

ご挨拶

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平安神宮では、創建と深い関係があることから「京都電気鉄道電車（京都市交通局二号電車）」を境内に展示しています。この電車は、我が国初の水力発電を利用した我が国初の電気鉄道です。車両は、現存する最古の電車であり、日本の電気鉄道発展の交通史や科学技術史において非常に価値が高いと評価され令和2年に重要文化財に指定されています。

しかし、車両本体をはじめ覆屋の老朽化が著しく、指定を受けて直ぐに文化庁・京都府・京都市・有識者による保存修理委員会を組織し、令和8年に斎行を予定しています「平安神宮百三十年祭」の記念事業の一つとして保存修理計画の検討を進めてまいりました。

ところが、コロナの襲来により資金面において疲弊し、さらには費用が当初の想定をはるかに上回る見込みとなり、クラウドファンディングを実施する等、資金調達に困窮いたしております。

つきましては、大変恐縮ではございますが、鉄道関係の皆様にご協力を賜りたく存じます。日本の電気鉄道発展の礎を築いた歴史遺産所有者として文化財を守り後世に伝える使命感を持って臨んでおりますので、何卒、趣旨ご理解の上、ご奉賛賜りますよう切にお願い申し上げます。

謹 白

平安神宮百三十年祭 特別委員会 代表 吉田 忠嗣
平安神宮 宮司 鷺尾 隆久

後援者ご挨拶

平安神宮に展示されます路面電車は、現存する日本最古の電車であり、重要文化財に指定される数少ない電車です。同時に我が国初の電気鉄道でもあり、先人の功績を称える象徴でもあります。所有者である平安神宮のみならず我々鉄道関係者にとっても単に文化財を守るというだけでなく、先人の奮励努力を後世に伝える上でも守っていかなければならない歴史遺産です。

又、今回の保存修理計画において車両本体の修繕はもとより展示場所が現状の神苑内（有料区画）から応天門横（無料区画）に移動され、より多くの方々に鉄道への興味を持って頂く機会が増える事を大変喜ばしく思っております。我が国初の電気鉄道であり、現存する日本最古の電車が平安神宮境内の正面に展示される事は、電気鉄道の聖地ができると言っても過言ではありません。

鉄道業界発展の為、趣意ご賛同頂き、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

京都市長 松井 孝治

西日本旅客鉄道株式会社
代表取締役会長 長谷川一明

京阪ホールディングス株式会社
代表取締役会長 加藤 好文

阪急電鉄株式会社
代表取締役社長 嶋田 泰夫

京都市公営企業管理者
交通局長 北村 信幸

日本民営鉄道協会
会長 杉山 健博

日本鉄道車輛工業会
会長 西山 隆雄

鉄道友の会
会長 佐伯 洋

京都電気鉄道電車保存修理委員会
車両部会長（鉄道総合技術研究所） 小野田 滋

平安神宮創建と京都電気鉄道電車の関係

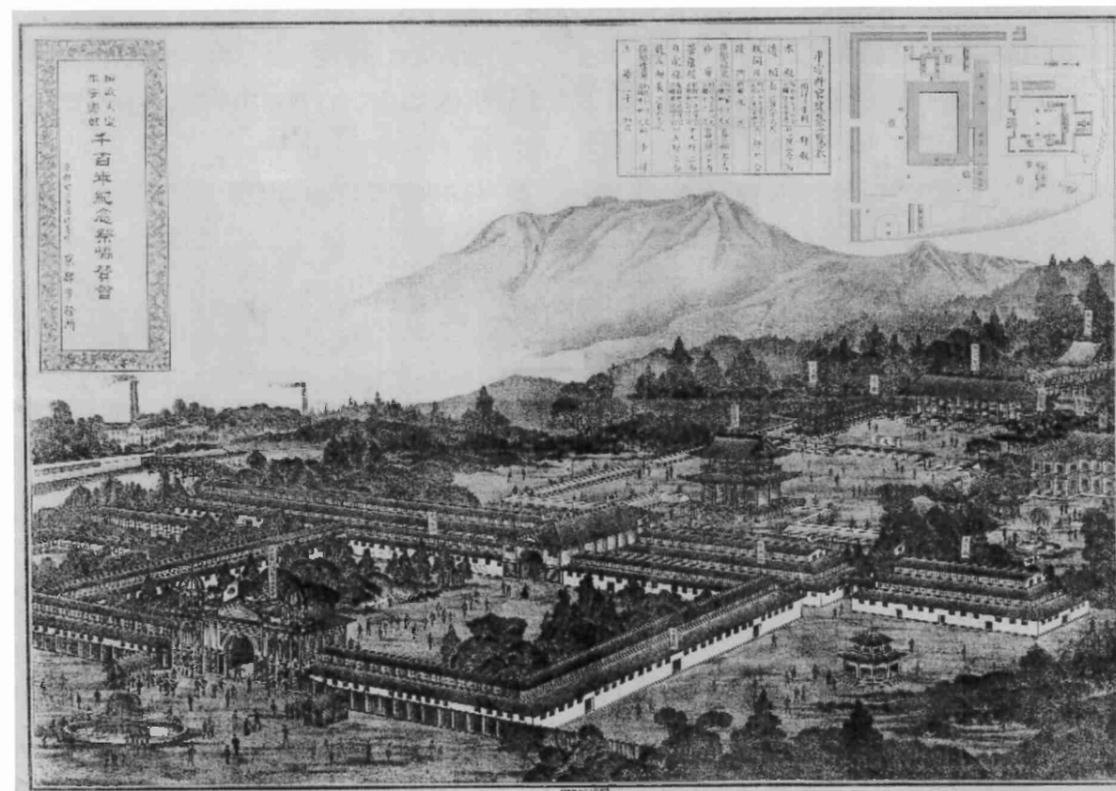
桓武天皇が平安京に都を遷されて以来、日本の都であった京都は、幕末の動乱の戦火により街の中心部を焼失し、さらには明治維新における事実上の東京奠都によって人口は3分の2にまで減少しました。人々は、衰亡の危機にさらされた京都の復興を強く願い、熱意を結集して街の復興に取組みました。

近代都市基盤確立を目指し、インフラ整備・近代化教育の促進・地場産業振興などの一連の事業が進められました。インフラ整備事業として琵琶湖疎水の建設が計画され、同時に疎水の水力を利用した蹴上発電所の建設とその電力を利用した電車敷設も計画されました。又、地場産業振興策として、第4回内国勸業博覧会の京都誘致と平安遷都千百年記念祭の挙行が計画されました。

琵琶湖疎水（第1疎水）が明治23年に完成し、翌年に蹴上発電所が完成。明治27年に京都電気鉄道株式会社が設立され、翌年、明治28年（1895）に日本最初の営業用電車として京都電気鉄道電車の運行が開始されました。

同年3月、平安遷都1100年を記念し京都復興の象徴として平安神宮が創建されると共に同年4月、第4回内国勸業博覧会が開催され、同年10月には、平安遷都千百年記念祭と時代祭行列が盛大に挙行されました。平安神宮（博覧会場）への交通機関として京都電気鉄道電車が活躍し、平安神宮神苑の池には琵琶湖疎水の水が利用されています。

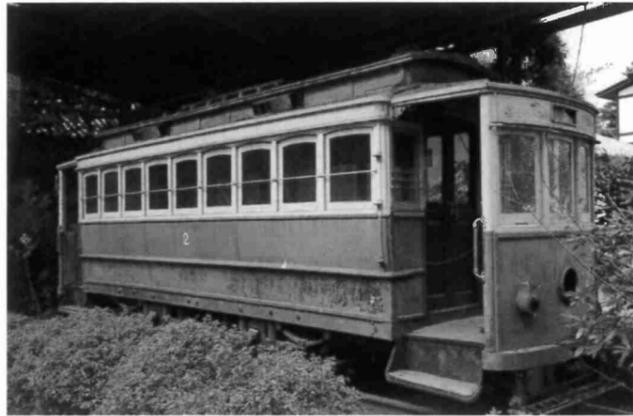
このように、平安神宮創建と京都電気鉄道電車には深い関係がある為、昭和36年に市電北野線が廃止された年に平安神宮が車両をもらい受け、現在、平安神宮南神苑に展示されています。



第4回内国勸業博覧会の様子

京都電気鉄道電車(京都市交通局二号電車)について

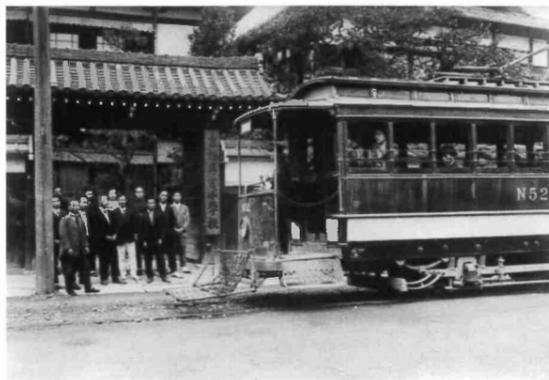
平安神宮に展示されている京都電気鉄道電車(京都市交通局二号電車)は、明治28(1895)年、我が国最初の公共電気軌道を開業した京都電気鉄道株式会社にて使用された路面電車です。現存する電車の中で製造年代が最も古く明治44(1911)年、大阪府堺市の梅鉢鉄工場で製造されました。長さ8.382m、幅2.020m、高さ3.299m、自重6.76t、木製台枠上に木製車体を載せています。台車は車体と一体化した単台車で



で米国ブリル社製、電動機は当初、米国ゼネラル・エレクトリック社製(GE800型)でしたが昭和34年に神戸製鋼所鳥羽工場製(Tb-23C型)に取替られています。外国製品を日本製の車体に組み合わせて国内製造所で製造された車輛は、国内製造の規範となり、我が国の電気鉄道発展に貢献しました。

明治28年2月、京都電気鉄道は琵琶湖疎水の水力を利用した我が国初の事業用水力発電所である蹴上発電所(現関西電力)の電力を利用して開業しました。当初は伏見線、鴨東線を開通、同年4月には、岡崎で開催された第4回内国勧業博覧会(平安神宮創建)に合わせ七条停車場～南禅寺間を開通、ついで同33年に北野線、同37年に西洞院線を増設運行しました。しかし、同45年6月に京都市が市電の営業を開始した為、京都電気鉄道は京都市電と競合、結果的に大正7年(1918)6月に京都市によって買収され合併されました。本車両も狭軌車両の一両として市に移管され、狭軌第52号(N52)となり、昭和30年の車番変更で2号となりました。

その後、昭和2年(1927)4月までの間に木屋町線、出町線、烏丸丸太町線などが逐次廃止され、北野線だけが残されていましたが最後のこの線も昭和36年(1961)7月をもって廃止され「ちんちん電車」の愛称で親しまれた日本最古の電車もその姿を消すこととなりました。同年12月に平安神宮創建と深い関りがあることから平安神宮に移設され現在に至ります。先駆的な初期路面電車として日本の交通史や科学技術史において非常に価値が高いと評価され令和2年に国指定重要文化財に指定されています。



狭軌第52号(N52)当時の写真(京都市立京極小学校 所蔵)



車番変更後(2号)当時の写真(中村浩史 所蔵)

電車の現状について

電車の現状は、車両本体の外装・内装をはじめ車両保護の覆屋の老朽化も著しい状態です。車体の塗装は、少し触っただけで塗装が剥がれ落ち、内部の吊革・シート生地等も同様の状態です。



現在の展示状態

剥がれ落ちた塗装



現状の電車内部

剥がれ落ちた内部塗装



車内天井の塗装

座席生地の破れの一部

皮が切れ落ちた吊革



老朽化した覆屋

腐食が著しい覆屋支柱

保存修理計画について

①車両本体の修繕

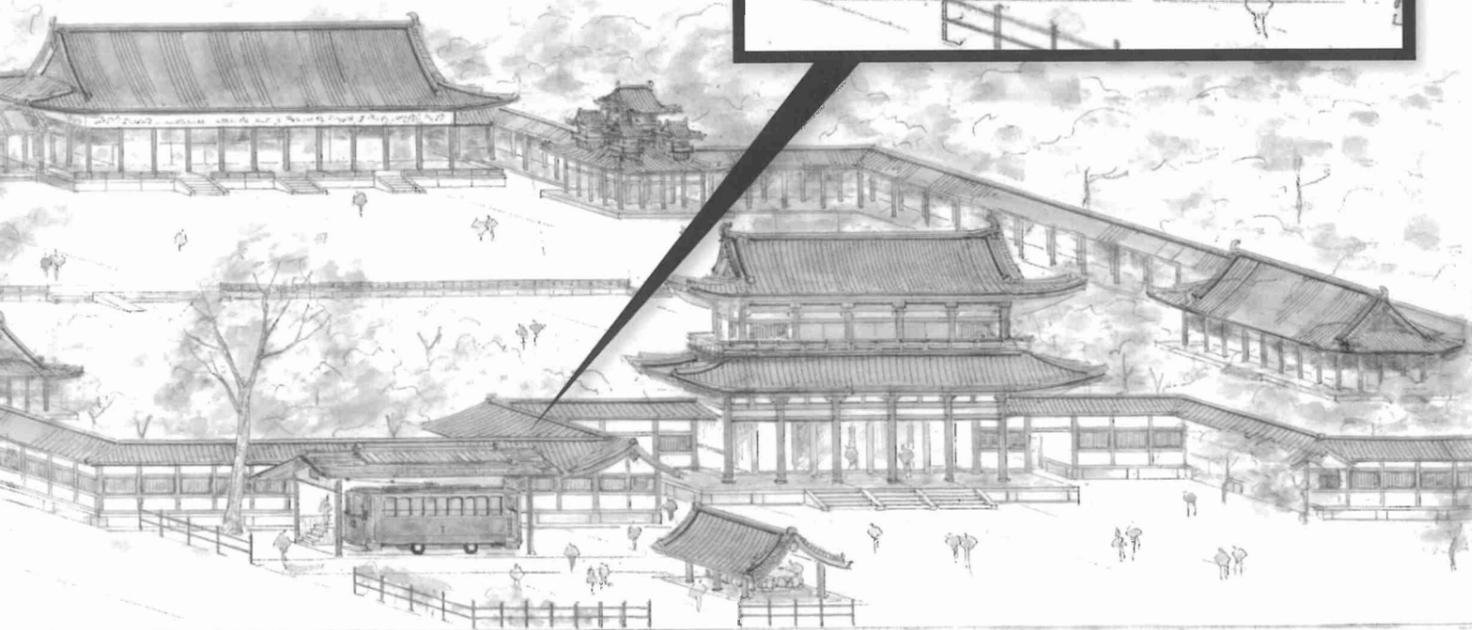
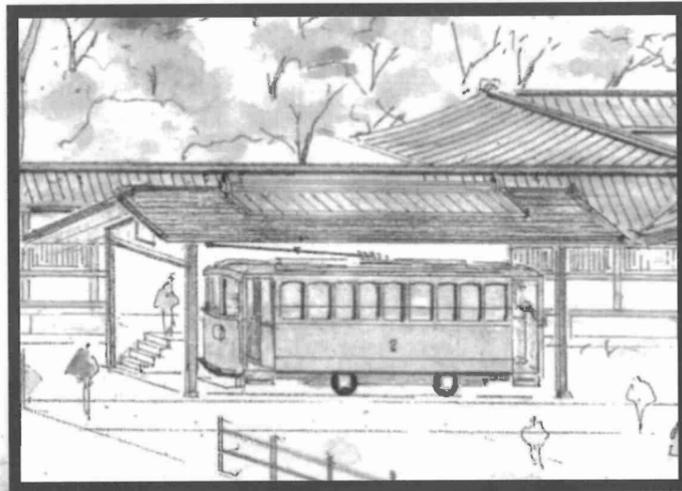
現在、文化庁、京都府・京都市文化財保護課、有識者により保存修理委員会を組織し、修理内容と今後の保存計画を検討しています。文化庁として電車の修理を手掛けるのは、初の取り組みであり、今後の規範となる為、慎重に議論を重ね内容を決定しています。

②展示場所移動と覆屋新築・周辺通路整備

今回の保存修理計画において、車両本体の修理と覆屋の改修はもちろんですが、現在、南神苑(有料区画)に展示されている電車を無料区画で展示し、より多くの方々が見学できるようにするべきとのご意見を文化庁はじめ多くの鉄道愛好家の方々から頂きました。平安神宮としても皆様のご意見を真摯に受け止め、この度の計画では、重要文化財である電車を応天門西側(無料区画)に移設、それに伴い周辺の参拝者通路を整備し、近代日本の発展に寄与した歴史遺産を後世に伝えてゆく所存です。

修繕費用(概算見積による)

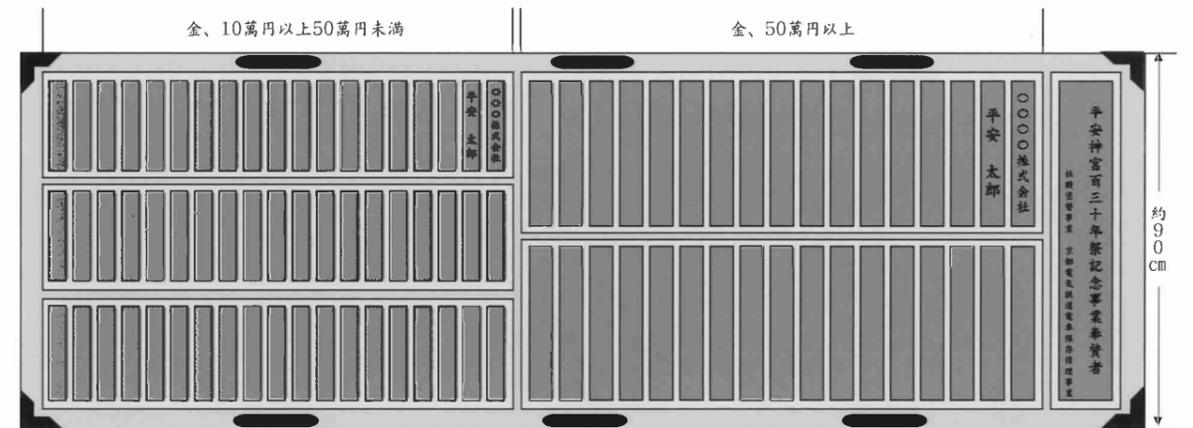
電車修繕費(移動費・管理費含む)	1億2,000万円
覆屋建設費(レール敷設費・防犯対策費含む)	5,100万円
周辺整備費(通路整備)	4,000万円
研究記録費(有識者会議・記録撮影等)	300万円
合計	2億1,400万円



〈完成イメージ〉 ※わかりやすく表示する為、電車・覆屋を拡大し、電車前の樹木を省略して描いています。

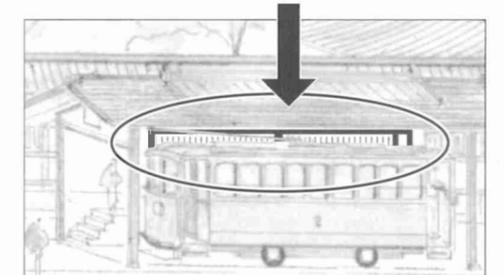
重要文化財 京都電気鉄道電車(京都市交通局二号電車) 保存修理事業ご奉賛について

1. 京都電気鉄道電車保存修理事業 御奉賛金 一口 金、10万円
本事業は、税の優遇処置が受けられます。詳しくは別紙「ご寄付に対する税の優遇措置について」をご参照下さい。
2. 平安神宮百三十年祭奉賛者名板への貴社名記載と記念大祭へのご案内
ご奉賛頂きました企業様には、新設覆屋内の電車見学通路壁の上部に設置予定の奉賛者名板に貴社名を記載(希望企業のみ)、又、記念大祭にご案内させていただきます。
※記載は会社名のみとなります。ご代表様等が個人でご寄付頂きます場合は、個人名を記載します。



記載文字の大きさは金額により異なります。

- ①大文字 50万円(5口)以上
 - ②小文字 10万円(1口)以上 50万円(5口)未満
- 〈参考〉平安神宮の年間参拝者数は約500万人です。



見学通路上部に設置いたします。

3. ご奉賛(寄付)の申し込み

ご奉賛頂けます場合は、同封の「寄付書」に必要事項をご記入の上、ご郵送下さい。
ご入金は、下記銀行と郵便局のいずれか便利な方法をご利用下さい。
尚、同封の払込用紙にて下記銀行の支店を通じて払い込まれますと振込手数料は不要です。

【銀行】	○三菱UFJ銀行	聖護院支店	口座番号	普通	0220769
	○京都銀行	銀閣寺支店	口座番号	普通	3387754
	○京都中央信用金庫	岡崎支店	口座番号	普通	0320269
口座名 平安神宮130年祭特別委員会					
【郵便局】	口座番号 00930-4-198834				
	(他行からの振込) 0九九(ゼロキュウキュウ)店 当座 0198834				
口座名 平安神宮百三十年祭特別委員会					

〈問合せ〉 〒606-8341 京都市左京区岡崎西天王町97 平安神宮社務所内
平安神宮百三十年祭特別委員会事務局
TEL 075-761-0221 FAX 075-761-0225